

東京23区が
見える。わかる。

2025 SPRING

Vol.60

ワンツースリー One23

公益財団法人特別区協議会 特別区自治情報・交流センター発行の東京23区情報誌

特集

知の施設 あんなこんなの教育施設紹介

■知の施設

板橋区…まなぽーと大原(大原生涯学習センター)

練馬区…練馬区立中里郷土の森緑地

足立区…足立区生物園  中野区立歴史民俗資料館

葛飾区…葛飾区科学教育センター(未来わくわく館)

江戸川区…江戸川区子ども未来館

■クマなくさんぽ

…中野区

山崎記念中野区立歴史民俗資料館

■所蔵資料蔵出し

…「東京 生きる姿・新しい歩み」

もっと活用しよう!

特別区自治情報

こんなことしたよ

令和6年度第2回全国連携展示 「特別区全国連携プロジェクト10年のあゆみ～パネルで振り返る軌跡～」

平成26(2014)年9月に開始した特別区全国連携プロジェクトは、令和6(2024)年に10年の節目を迎えました。そこで今年度は、全2回の全国連携展示を通して、これまでの取組の実績や振り返りの展示を行いました。第2回となる今回は、過去の全国連携展示において展示したパネル等からプロジェクトの10年を振り返り、これまでの全国連携展示のあゆみや取組について紹介しました。



- ◆過去全13回の全国連携展示のパネルを紹介
- ◆全国連携講演会・魅力発信イベントの実績を紹介
- ◆被災地への特別区への対応を紹介
- ◆これまでの広域・包括連携協定締結の実績を紹介

主 催:特別区長会・公益財団法人特別区協議会

後 援:東京都



展示会場の様子

こんなことしてるよ

千代田区魅力紹介展示 「千代田ミュージアムネットワーク誕生 ミュージアムに出かけよう!文化・芸術の集うまち千代田」

令和7年3月12日(水)から5月7日(水)まで、東京区政会館1階エントランスホールにおいて、千代田区との共催によるパネル展示「千代田ミュージアムネットワーク誕生 ミュージアムに出かけよう!文化・芸術の集うまち千代田」を開催しています。

千代田ミュージアムネットワークは、区内に所在する博物館等の施設が互いに連携・協力し、区内に集積する知的資産をより有効に活用し、文化・芸術の振興に資することを目的とした団体です。

今回の展示では、千代田区に集う文化・芸術に親しんでいただけるよう、歴史、絵画、科学、自然、刀剣、仏像、書籍、着物など、様々なジャンルを扱う千代田ミュージアムネットワークに参加している34館をご紹介します。

本展示をきっかけに、ぜひお気に入りのミュージアムを見つけてみてください。



交流センター

特別区自治情報・交流センターとは？

23区(特別区)と地方自治の専門図書館として約11万9千冊の資料を所蔵しています。特別区や地方自治について知りたい、調べたいときなどにご利用ください。

所蔵資料
蔵出し

おすすめのほんだよ

当センターの資料から読み解いてみよう!



▶▶ 東京 生きる姿・新しい歩み

今回は、「東京 生きる姿・新しい歩み」をご紹介します。

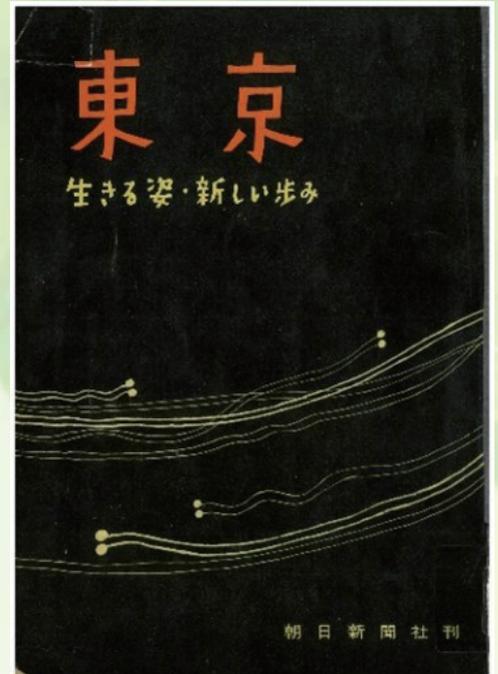
本書は、昭和29(1954)年に朝日新聞社出版局から刊行されたもので、全国人口の約1割を占める東京は、東京以外に住んでいる人、東京をよく知らない人に対しても東京の情報を伝える必要があるという考えのもと、東京という都市を多面的に伝えることを目的としています。

客観性の高い数値や実態を記す一方で、率直かつ軽妙な書きぶりにより、誰もが読みやすく、戦後間もない時代の世相や空気感を追体験できるものとなっています。

また、街並みや施設の写真だけでなく、企業広告、大学・各種学校の紹介記事が随所に挟み込まれているため、当時の東京の雰囲気味わうことができます。

第1章の「膨れる東京」では、戦後の爆発的な人口増加と、それに付随する食や住宅等の様子、更に当時の都民が頭を悩ませた騒音や交通に関して述べています。昭和20年代の東京は、終戦による疎開からの引き揚げ、若者の進学や就職を契機とした地方からの転入等により、人口が毎年30万人以上増加し続けていました。本章は、この急増した人口に社会インフラが追いつかない様子を様々な分野から捉えています。

第2章では「都政白書」として、東京都政を取り上げています。その中では特別区との関係にも触れています。本書刊行当時、特別区は東京都の内部団体と位置付けられており、区として行うことのできる事務は現在に比べて制限されていました。その状況について、「地方自治法によつて処置事務が制限されているが、



表紙

区側では自分たちの区をもつと自治区にしたいと希望し、都ではいつそ行政区にしてしまおうと考えているらしいのが、いつも都と区の争いの焦点となっている。」と書かれています。更に、財政面についての都区それぞれの思いやせめぎ合いについても言及しています。

本書は、他にも地理、産業、生活、文化から犯罪といったものまで、東京という地域を幅広く取り上げています。是非お手に取ってご覧ください。

年	総数	男	女
昭和二	2,900,000	1,450,000	1,450,000
昭和三	3,000,000	1,500,000	1,500,000
昭和四	3,100,000	1,550,000	1,550,000
昭和五	3,200,000	1,600,000	1,600,000
昭和六	3,300,000	1,650,000	1,650,000
昭和七	3,400,000	1,700,000	1,700,000
昭和八	3,500,000	1,750,000	1,750,000
昭和九	3,600,000	1,800,000	1,800,000
昭和十	3,700,000	1,850,000	1,850,000
昭和十一	3,800,000	1,900,000	1,900,000
昭和十二	3,900,000	1,950,000	1,950,000
昭和十三	4,000,000	2,000,000	2,000,000
昭和十四	4,100,000	2,050,000	2,050,000
昭和十五	4,200,000	2,100,000	2,100,000
昭和十六	4,300,000	2,150,000	2,150,000
昭和十七	4,400,000	2,200,000	2,200,000
昭和十八	4,500,000	2,250,000	2,250,000
昭和十九	4,600,000	2,300,000	2,300,000
昭和二十	4,700,000	2,350,000	2,350,000
昭和二十一年	4,800,000	2,400,000	2,400,000
昭和二十二年	4,900,000	2,450,000	2,450,000
昭和二十三年	5,000,000	2,500,000	2,500,000
昭和二十四	5,100,000	2,550,000	2,550,000
昭和二十五	5,200,000	2,600,000	2,600,000
昭和二十六	5,300,000	2,650,000	2,650,000
昭和二十七年	5,400,000	2,700,000	2,700,000
昭和二十八年	5,500,000	2,750,000	2,750,000
昭和二十九年	5,600,000	2,800,000	2,800,000
昭和三十年	5,700,000	2,850,000	2,850,000
昭和三十一年	5,800,000	2,900,000	2,900,000
昭和三十二年	5,900,000	2,950,000	2,950,000
昭和三十三年	6,000,000	3,000,000	3,000,000
昭和三十四	6,100,000	3,050,000	3,050,000
昭和三十五年	6,200,000	3,100,000	3,100,000
昭和三十六	6,300,000	3,150,000	3,150,000
昭和三十七	6,400,000	3,200,000	3,200,000
昭和三十八	6,500,000	3,250,000	3,250,000
昭和三十九	6,600,000	3,300,000	3,300,000
昭和四十	6,700,000	3,350,000	3,350,000
昭和四十一年	6,800,000	3,400,000	3,400,000
昭和四十二年	6,900,000	3,450,000	3,450,000
昭和四十三年	7,000,000	3,500,000	3,500,000
昭和四十四	7,100,000	3,550,000	3,550,000
昭和四十五年	7,200,000	3,600,000	3,600,000
昭和四十六	7,300,000	3,650,000	3,650,000
昭和四十七	7,400,000	3,700,000	3,700,000
昭和四十八	7,500,000	3,750,000	3,750,000
昭和四十九	7,600,000	3,800,000	3,800,000
昭和五十年	7,700,000	3,850,000	3,850,000
昭和五十一年	7,800,000	3,900,000	3,900,000
昭和五十二年	7,900,000	3,950,000	3,950,000
昭和五十三年	8,000,000	4,000,000	4,000,000
昭和五十四	8,100,000	4,050,000	4,050,000
昭和五十五年	8,200,000	4,100,000	4,100,000
昭和五十六	8,300,000	4,150,000	4,150,000
昭和五十七	8,400,000	4,200,000	4,200,000
昭和五十八	8,500,000	4,250,000	4,250,000
昭和五十九	8,600,000	4,300,000	4,300,000
昭和六十年	8,700,000	4,350,000	4,350,000
昭和六十一年	8,800,000	4,400,000	4,400,000
昭和六十二年	8,900,000	4,450,000	4,450,000
昭和六十三年	9,000,000	4,500,000	4,500,000
昭和六十	9,100,000	4,550,000	4,550,000
昭和六十一	9,200,000	4,600,000	4,600,000
昭和六十二	9,300,000	4,650,000	4,650,000
昭和六十三	9,400,000	4,700,000	4,700,000
昭和六十四	9,500,000	4,750,000	4,750,000
昭和六十五	9,600,000	4,800,000	4,800,000
昭和六十六	9,700,000	4,850,000	4,850,000
昭和六十七	9,800,000	4,900,000	4,900,000
昭和六十八	9,900,000	4,950,000	4,950,000
昭和六十九	10,000,000	5,000,000	5,000,000
昭和七十	10,100,000	5,050,000	5,050,000
昭和七十一	10,200,000	5,100,000	5,100,000
昭和七十二	10,300,000	5,150,000	5,150,000
昭和七十三	10,400,000	5,200,000	5,200,000
昭和七十四	10,500,000	5,250,000	5,250,000
昭和七十五	10,600,000	5,300,000	5,300,000
昭和七十六	10,700,000	5,350,000	5,350,000
昭和七十七	10,800,000	5,400,000	5,400,000
昭和七十八	10,900,000	5,450,000	5,450,000
昭和七十九	11,000,000	5,500,000	5,500,000
昭和八十	11,100,000	5,550,000	5,550,000
昭和八十一	11,200,000	5,600,000	5,600,000
昭和八十二	11,300,000	5,650,000	5,650,000
昭和八十三	11,400,000	5,700,000	5,700,000
昭和八十四	11,500,000	5,750,000	5,750,000
昭和八十五	11,600,000	5,800,000	5,800,000
昭和八十六	11,700,000	5,850,000	5,850,000
昭和八十七	11,800,000	5,900,000	5,900,000
昭和八十八	11,900,000	5,950,000	5,950,000
昭和八十九	12,000,000	6,000,000	6,000,000
昭和九十	12,100,000	6,050,000	6,050,000
昭和九十一	12,200,000	6,100,000	6,100,000
昭和九十二	12,300,000	6,150,000	6,150,000
昭和九十三	12,400,000	6,200,000	6,200,000
昭和九十四	12,500,000	6,250,000	6,250,000
昭和九十五	12,600,000	6,300,000	6,300,000
昭和九十六	12,700,000	6,350,000	6,350,000
昭和九十七	12,800,000	6,400,000	6,400,000
昭和九十八	12,900,000	6,450,000	6,450,000
昭和九十九	13,000,000	6,500,000	6,500,000
昭和百	13,100,000	6,550,000	6,550,000

表1 人口の推移

普段とは違う視点から見た23区、
知ればもっと面白い!

コマなく さんぽ



中野区

郷土の文化遺産を保存し展示活用

1984年に名誉都民である山崎喜作氏から資料館敷地として自宅の土地約2,600㎡と資料が寄付され、1989年に山崎記念中野区立歴史民俗資料館として開館しました。中野の歴史に触れることができる豊富な展示資料を有しながらも、誰でも気軽に立ち寄り無料で利用できる施設として、区民を中心に活用されています。中野区の文化遺産の研究保全のほか、子どもたちの社会科見学など、地域への愛着や興味を育む活動に力を入れています。

屋内屋外に興味深い展示が満載

1階には特別展示室、2階には常設展示室と企画展示室が設けられています。2020年にリニューアルした常設展示は、中野の歴史と文化財の中でも特徴的なものを集めた「中野みどころの樹」を中心に、さまざまな資料や模型、デジタルコンテンツで旧石器時代から現代までわかりやすく紹介しており、区の歴史や文化財を詳しく学ぶことができます。江戸時代に建てられた江古田の旧家を移築再現した民俗展示は、昔の人々の暮らしをリアルに体験でき、弥生時代や江戸時代の衣装を試着できるコーナーとともに人気を呼んでいます。

野外には、山崎家庭園・茶室(春と秋に公開)のほか、沢庵漬に使われた大きな樽の「とうご」や、江古田・沼袋地域であった合戦に由来する「金塚」など、地域の歴史を物語る文化財が展示されています。中野区指定記念物の樹齢約500年の「醤油屋のしいの木」も見応えがあります。

再訪する度新しい魅力を発見

毎春開催される「おひなさま展」など年6回の企画展示や季節ごとの趣向を凝らしたミニ展やワークショップなどのイベントは、子どもから大人まで幅広い層に楽しんでもらえるよう工夫されています。そのほか専属のデザイナーが学芸員とともに作りあげる、チラシやポスター、展示パネルといった質の高いグラフィック類も必見です。展示ごとに作るデザイン性の高い来館者プレゼントも好評です。さまざまな世代の人々に「また来たい」と思わせる満足度の高い仕掛けがたくさんある「れきみん」の魅力を探しに、ふらっと訪れてはいかがでしょうか。

中野区の魅力を再発見

「山崎記念中野区立 歴史民俗資料館」

「れきみん」という愛称で区民に親しまれている「中野区立歴史民俗資料館」は、中野の歴史と文化を後世に伝えるだけでなく、現代の人々がその価値を再発見する場所として、中野区民のみならず多くの人に愛され利用されています。



▲中野の歴史を絵巻物のようにたどることが
できる常設展示



▲樹齢約500年のしいの木



▲旧深野邸を復元した「民俗展示」



▲沢庵漬に使われた「とうご」



▲来館プレゼントのペーパークラフト



●館藏品展「山崎家の漆器」

旧江古田村名主家・山崎家に受け継がれ、その暮らしの中にあつた漆器を紹介します。

開催期間:2025年4月22日～6月14日

山崎記念中野区立歴史民俗資料館

所在地 中野区江古田4-3-4
開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)
休館日 月曜日、第3日曜日、年末年始
入館料 無料
アクセス 西武新宿線沼袋駅より徒歩8分
お問合わせ 03-3319-9221





特集

第4回(全4回)

知の施設



あんなこんな教育施設紹介



板橋区



世代を超えて学び合う利用者の笑顔があふれる学びの『輪』

「つどう・まなぶ・むすぶ」学習施設「まなぼーと大原」は、学習活動を行う団体への施設の貸し出しや各種講座の開催を通じて、区民に開かれた学習支援を行っています。施設内にある「i-youth(あい・ゆーす)」は、中学生・若者が気軽に立ち寄り、ダンスの練習、自主学習、友人との語りなど自由に過ごすことができる場です。もちろん一人で静かに過ごすこともできます。築50年超の古い建物ですが、利用者は活き活きと活動しており、職員も利用者の笑顔から元気をもらっています。



まなぼーと大原は、主に中学生から90歳代の方まで幅広い層が利用しています。i-youthにはキッチンもあり、敷地内の畑で収穫した野菜などを使用し調理をすることもできます。参加者がプロの演奏家をバックに楽器を演奏したり、生演奏で好きな歌を歌ったりできる「i-youthミュージックコンサート」など、イベント運営にも力を入れています。

まなぼーと大原(大原生涯学習センター)

所在地 板橋区大原町5-18
開館時間 9:00~21:30
休館日 第3月曜日・年末年始
利用料金 ホームページ参照
アクセス 都営三田線本連沼駅より徒歩5分
お問い合わせ 03-3969-0401



練馬区



身近な生きものが大好きな自然解説員が常駐

練馬区に100年以上続く屋敷林を生かし、身近な環境にもまだまだ残る自然を体験できる施設として、2017年にオープンしました。みどりを守り創出する意識の向上を図ることを目的として、みどりや生きものと触れ合う体験を通じて自然の豊かさを実感できる場を提供しています。区内の子どもを中心に、誰でも身近な自然で楽しく遊び学ぶことのできる施設として、自然体験プログラムや生体・パネル展示、企画展示、生物調査などを年間を通じて行い、利用促進に取り組んでいます。



虫網、双眼鏡など観察道具の貸出や、常駐する解説員による自然解説も行っており、地域の自然や生き物を活かし、その魅力を体験により伝えることを大事にしています。今後は、区内に広く視点を広げていき、団体の受け入れや区内の別の公園でのプログラムの実施など、活動を広げていければとしています。

練馬区立中里郷土の森緑地

所在地 東京都練馬区大原町1-51-2
開館時間 9:00~17:00(10~2月は~16:30)
休館日 毎週火曜日(祝日の場合翌日)、
年末年始(12/29~1/3)
利用料金 無料
アクセス 西武池袋線大泉学園駅より西武バス
和光市駅南口行き北大泉下車徒歩5分
お問い合わせ 03-3922-3021



足立区



生き物と出会い観察し知識を高めて共生を学ぶ

1993年にオープンした足立区生物園は、昆虫、魚類、両生類、は虫類、鳥類、哺乳類など約500種の生き物を飼育・展示しており、「ふれあい・いのち・共生」という3つの柱をコンセプトに運営されています。生き物の生育環境を再現した水槽や季節に関わらず1年中500匹以上のチョウが舞う大温室、モルモットとのふれあい体験コーナーなどが人気です。今年1月から新たに展示されている、砂漠の妖精「グンディ」は、日本では2施設しか見られず、愛らしく重なる寝姿が人気を集めています。



常設展示以外にもイベント・企画展など環境教育の場が充実しています。常設展示やイベントのほかに、解説員や飼育員と来園者の距離が近いところも特徴です。展示を見て生まれた疑問はすぐ近くにいるスタッフに質問でき、スタッフとの心温まる交流が生まれるということも、同園の人気の理由のひとつです。

足立区生物園

所在地 足立区保木町2-17-1
開館時間 9:30~17:00(11~1月は~16:30)
休館日 月曜日(祝日の場合翌日)、年末年始(12/29~1/1)
利用料金 大人300円、小人150円
アクセス 東武鉄道伊勢崎線竹の塚駅より
徒歩20分
お問い合わせ 03-3884-5577



葛飾区



科学の不思議さ楽しさを、体験しながら学ぶ場

葛飾区教育委員会と東京理科大学との連携事業である葛飾区科学教育センター「未来わくわく館」は、2013年、東京理科大学葛飾キャンパス内に開館しました。同施設には、実験室や工作室のほかに、「空気」「水」「光」をテーマにした参加体験型展示装置があり、幼児から大人まで、科学の不思議を気軽に体験することができます。子どもたちが幼少期から科学的な現象などに触れる機会を提供することで、科学への興味や関心を高めて、科学的な考え方を育てることを目的としています。



幼児と保護者を対象にしたキッズ教室や小学生と中学生を対象にした科学教室のほか、葛飾区民を対象に広く体験型講座を開講しており、多くの区民に利用されています。今後は、葛飾区教育委員会と東京理科大学との連携事業をさらに充実させ、理大生や理大教授による科学教室などを実施していきたいとしています。

葛飾区科学教育センター(未来わくわく館)

所在地 葛飾区新宿6-3-2
開館時間 9:00~17:00
休館日 第3月曜日・年末年始(12/28~1/4)
利用料金 無料
アクセス JR常磐線金町駅より徒歩8分
お問い合わせ 03-5876-6790



江戸川区



創造性豊かな子どもたちを育て「学び」を提供

「江戸川区子ども未来館」は、小学生を対象とした学びのプログラムを実施する「子どもアカデミー」と、子ども向けの資料を多く揃える「篠崎子ども図書館」からなる施設です。子どもアカデミーには学びのプログラムを実施する3つの教室があります。科学の実験や生きもの、哲学、政治、法律、経済、天文、アート、音楽など幅広いテーマを体験的に学ぶプログラムを実施しており、たくさん子どもたちに利用してもらいたい色々な事に興味をもってほしいと、魅力的なプログラムの開発に努めています。



同館は、区民講師やボランティア、専門家、専門機関とともに、幅広い分野のプログラムを開発しながら運営しています。江戸川区の自然や産業、人材などあらゆる地域資源を活用して、体験しながら継続的に学べる機会を提供しており、子どもたちの探究活動の拠点となっています。

江戸川区子ども未来館

所在地 江戸川区篠崎町3-12-10
開館時間 9:00~17:00
休館日 休館日
子どもアカデミー:月曜日(祝日の場合は翌火曜日)、年末年始
篠崎子ども図書館:第4月曜日(祝日の場合は翌日)、特別整理期間、年末年始
利用料金 無料
アクセス 都営新宿線篠崎駅より徒歩15分
子どもアカデミー:03-5243-4011
篠崎子ども図書館:03-5664-2011
お問い合わせ



特集 知の施設

あんなこんな教育施設紹介

過去の号(Vol.57~59)で紹介してきました施設の一覧です。「One23」は、特別区協議会のホームページから見ることができます。

(<https://www.tokyo-23city.or.jp/>)



Vol.57 夏号(2024.7.1発行)

- 千代田区 千代田区立日比谷図書文化館
- 中央区 中央区立郷土資料館
- 港区 港区立小中一貫教育校赤坂学園
- 新宿区 新宿区立教育センター プラネタリウム
- 文京区 文京区教育センター
- 台東区 台東区立東浅草小学校

Vol.58 秋号(2024.10.1発行)

- 墨田区 フクシインタープライズ墨田フィールド
- 江東区 えこっくる江東
- 品川区 品川区立立鮫小学校
- 目黒区 目黒区めぐろ歴史資料館
- 大田区 大田区立郷土博物館
- 世田谷区 世田谷区立中央図書館 プラネタリウム

Vol.59 冬号(2025.1.1発行)

- 渋谷区 こども科学センター・ハチラボ
- 中野区 みらいステップなかの(中野区立中野東中学校併設)
- 杉並区 杉並区立就学前教育支援センター
- 豊島区 豊島区立池袋第一小学校
- 北区 北区立都の北学園
- 荒川区 荒川区立町屋文化センター

特別区自治情報・交流センターからのご案内

東京区政会館1階展示スペース

東京区政会館1階エントランスホールで各種展示を行っています。どなたでも自由にご覧いただけますが、開催期間・時間に変更になる場合もあります。ホームページ等でご確認のうえ、ご来館ください。
展示時間 平日 9:00~20:30/土曜日 9:00~17:00

東京二十三区清掃一部事務組合紹介展示
「23区に暮らす人々の
快適な生活環境を支える清掃一組
～設立から25年目を迎えて～」

主催 (公財)特別区協議会、
東京二十三区清掃一部事務組合
期間 令和7年5月13日(火)～7月1日(火)

「特別区制度の行路 第2期 区長公選廃止(上) 法制関係資料集」の発行

特別区制度は、昭和22年、地方自治法の制定とともに誕生し、その後、昭和27年、昭和40年、昭和50年、平成12年と、4回の大きな制度改正を経て、今日に至っています。地方自治法制定以来、このように大きな制度改正を何度も重ねてきた自治体は他には見られません。

本資料集は、特別区という制度がどのようにして生まれ変化してきたのか、制度改正の際の地方制度調査会の答申や国会での議論、地方自治法を中心とした関係法令の改正がどのような経過を辿ってきたのか等について、法令・国会審議・答申等を中心とした関係資料をとりまとめたものです。

第2期の上巻となる本書では、特別区の自治権が後退することとなった昭和27年の地方自治法改正案の立案から国会審議までの関係資料を収録しています。

特別区協議会ホームページにもPDFデータを掲載していますのでぜひご利用ください。



特別区協議会HP



特別区自治情報・交流センターのご利用について

〒102-0072 千代田区飯田橋3-5-1 東京区政会館4階

開館時間 9:30～20:30(土曜日は9:30～17:00) 休館日 日曜日、祝日、年末年始等

※ご利用にあたっては、(公財)特別区協議会ホームページ等でご確認のうえ、ご来館ください。

(公財)特別区協議会ホームページ

<https://www.tokyo-23city.or.jp/>

特別区自治情報・交流センターホームページ

<https://ilisod004.apsel.jp/tokyo-23city/>

特別区自治情報・交流センター(とくべつクマ)

X(旧Twitter)公式アカウント @tokubetsukuma23



特別区自治情報・交流センター



東京メトロ 東西線 飯田橋駅 A5出口すぐ
東京メトロ 有楽町線 飯田橋駅 A2出口徒歩2分
東京メトロ 南北線 飯田橋駅 A2出口徒歩2分
都営地下鉄 大江戸線 飯田橋駅 A2出口徒歩2分
JR中央・総武線 飯田橋駅 東口徒歩2分

編集後記

「知の施設 あんなこんなの教育施設紹介」をテーマにお届けした知の施設のシリーズは今回で終了となります。過去の発行冊子は「特別区自治情報・交流センター」で配布しています。また、当協議会ホームページからもご覧いただけますので、是非、活用してください。

One23と共に、春風に誘われて出かけてみませんか。